

トランプ・ポノミクスは世界を救うのか？

―トランプ時代の世界経済と日本経済の行方

早稲田大学政経学部教授

わかたべ
若田部 昌澄
まさずみ

- * 今考えるべき世界経済の3大焦点
- * 長期停滞の現状について
- * 米国の生産性は50年代がピーク
- * 格差と長期停滞は結びついている
- * TPPは新しいグローバル化に対応する協定
- * すべてをビジネスとして考えるトランプ
- * トランプ・ポノミクスの主要政策は何か
- * トランプ・ポノミクスが抱えるリスク
- * 日本の現状はトランプ頼みに



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は早稲田大学の若田部先生に来ていただきました。先週は藤原先生にトランプの出できた後の世界についてお話しいただいたわけですが、今日は経済のほうから世界の先進国の状況、とりわけトランプの政策がどうなるのか、具体的な政策はこの間の会見でもあまり触れられていませんが、何が予想され、どういう期待とリスクがあるのかといったことを今日はお話しいただけると思います。

それでは若田部先生、よろしくお願いたします。（拍手）

若田部 明けましておめでとうございます。

本年もよろしくお願いたします。

「トランプ・ポノミクスは世界を救うか？」と大

上段に掲げておりますけれども、経済のほうから見てトランプの世界はどうなっているのかというお話をしたいと思います。

前回私がここに登場させていただきましたのは2015年10月でして、ほぼ14カ月前です。そのときは「激動する世界経済」ということで、五つの国と日本を含めて六つ、概略、次のようなお話をいたしました。アメリカが最大のリスクであると言ったのは、あの文脈ではFRBがどういふふうな決定をするのかということだったけれども、幸いにしてアメリカ経済は今好調であるのは事実です。ただ、ここから先どうなるのかというのは、やはりそれでもリスクとしてあるだろうと考えております。

それで2017年はどうなるかということでは